く社會の表面に現はれて居なかつたと云ふ事を示すもので、寧ろ奇異に感ぜらるゝのである。然しながら、又能く考へて見ると、此の社會の表面に頭を出さなかつたと云ふ所に、白隱の白隱たる特有の偉大なる點が在るのであつて、白隱は社會の表面に立つて有形的に活動したのでなくて、宗門内に於て無形的の活動に盡瘁したのであつた。是が即ち多くの偉人と異つて居る點である。だから其の眼中には、王侯もなければ、貴顯もない、寺院もなければ、所謂社會もない。單々として隻手を振うて、見性、透關、進修、向上の宗風を提揚し、爛々たる銅眼を耀かして、當時の滔滔たる念佛默照の邪禪を照破し、三百年來、已墜の宗風を挽回し、百五十年下其の遺烈を今日に仰がしめるのであつて、實に近世禪林の中樞となつた偉僧である。此の無形の大勢力を釀成したものが、白隱をして偉人たらしめた所の要素であつて、決して有形的の事功を以つて之を論評し去る可きものではなかつた。而うして其の性行の洒落である、文章の健妙である、繪畫の高逸である、とは、其の門庭の濟々林々として、蔚興したのと共に、吾人をして益々其の盛德に感ぜしむるものである。されば其の名辭の上に五百年間出の語を冠したのも、敢へて溢美ではなかつたと言つて可からう。

附録

一年譜

貞享二　乙丑（一）　齢十二月二十五日駿河國駿東郡郡原驛に生る。○古月、十九歳。
同　三　丙寅（二）
同　四　丁卯（三）　足始めて起つ。
元禄元　戊辰（四）
同　二　己巳（五）　○古月、阿波國慈光寺に往き滝梁に參ず。
同　三　庚午（六）　海濱に遊び無常の觀を起す。
同　四　辛未（七）　「法華經」提婆品を聽いて覆講す。
同　五　壬申（八）　○黄檗獨湛、獅子林院に退く。
同　六　癸酉（九）
同　七　甲戌（一〇）
同　八　乙亥（一一）　原の昌源寺に往き地獄の苦相を聽いて怖畏す。
同　九　丙子（一二）　諏訪に往き日親上人の操（アヤツリ）を見て出家の志を起す。
同　一〇　丁丑（一三）　○二月獨湛、遠江初山に菩薩戒を開く。
同　一二　戊寅（一四）　九月「禪林句集」を習ふ。
同　三　己卯（一五）　二月原松蔭寺に出家し、尋いで沼津大聖寺に入り息道に侍す。○古月、黄檗山に登り千顕に就いて受戒す。
同　三　庚辰（一六）　「法華經」を讀み佛教を疑ふ。
同　一四　辛巳（一七）　○正月單嶺寂す。○透鱗、松蔭寺に住す。
同　一五　壬午（一八）
同　一六　癸未（一九）　清水の禪叢寺に入り「正宗賛」を讀みて禪宗を疑ふ。
寶永元　甲申（二〇）　春、美濃瑞雲寺に到り馬翁に侍す。夏、「禪關策進」に擯斥す。○古月、日向大光寺に歸る。

同　二　乙酉（二一）春、美濃保福寺に到る。

同　三　丙戌（二二）春、若狭常光寺に到る。夏、伊豫正宗寺に到る。「佛祖三經」を讀みて大歡喜を生ず。○正月黄檗獨湛寂す。

同　四　丁亥（二三）春、備後天祥寺に到る。秋、故郷に歸る。○古月、日向大光寺に住す。

同　五　戊子（二四）二月越後英巖寺に到り豁然大悟す。四月、宗格と共に信濃飯山正受菴に到り、道鏡に參ず。

同　六　己丑（二五）

同　七　庚寅（二六）○古月、大般若經書寫の業を始む。

正德元　辛卯（二七）十一月飯山正受菴を辭して歸國し、沼津大聖寺に入りて息道の病に侍す。身火逆上す。

同　二　壬辰（二八）沼津大聖寺を辭し伊勢建國寺に到る。冬、和泉蔭涼寺に到り雪を聽いて大悟す。○八月息道寂す。

同　三　癸巳（二九）夏、蔭涼寺を辭して京都に到る途中、雨に遇うて荷葉圓々の頌に入得す。秋、若狭圓照寺に到り鐵堂に侍す。

同　四　甲午（三〇）秋、美濃靈松寺に到る。

同　五　乙未（三一）三月美濃岩瀧山に隙棲す。

享保元　丙申（三二）十一月松陰寺に歸る。

同　二　丁酉（三三）正月松陰寺に入院す。○十二月父宗彝居士卒す。

同　三　戊戌（三四）十一月妙心寺第一座に昇り、透鱗の法を嗣ぐ。

同　四　己亥（三五）春、「正宗贊」を講ず。

同　五　庚子（三六）三月伊豆古名の溫泉に浴す。秋、脫上座來參。○古月、知父軒に退く。

同　六　辛丑（三七）冬、「大慧書」を講ず。○八月黄檗慧極寂す。○十月正受慧端寂す。

同　七　壬寅（三八）夏、「原人論」を講ず。

同　八　癸卯（三九）

同　九　甲辰（四〇）夏「博山醫語」を講ず。聽衆二十餘人。

同　一〇　乙巳（四一）春、北豆秋山重昌來謁す。

同　一　丙午（四二）七月「法華經」の妙理に契當す。

同　三　丁未（四三）庄司察女來謁す。

同　三　戊申（四四）石井玄德、杉山宗信來謁す。

同　一四　己酉（四五）　古郡兼通來謁す。

同　一五　庚戌（四六）　十一月杉山政女來謁す。○十一月宗格寂す。

同　一六　辛亥（四七）　夏、「四部錄」を講じ、次に「寒山詩」を講ず。聽衆二十五人。

同　一七　壬子（四八）　春、「臨濟錄」を提唱し、次に「碧巖錄」を評唱す。聽衆四十人、住菴二十餘人。

同　一八　癸丑（四九）　秋、「禪門寶訓」を講ず。聽衆三十餘人。「神社考」を讀む。○古月、骨清堂に退居す。

同　一九　甲寅（五〇）　春、良哉來參。夏、「碧巖錄」を提唱す。聽衆二十餘人。

同　二〇　乙卯（五一）　春、「虛堂錄」を提唱す。夏、「禪門寶訓」を講ず。

元文　元　丙辰（五二）　春、「維摩經」を講ず。聽衆三十餘人。住菴八人。夏、「碧巖錄」を提唱す。秋、松隆寺僧堂を建つ。冬、妙智山觀音寺に開山の式を擧ぐ。

同　二　丁巳（五三）　冬、伊豆臨濟寺に赴き、「碧巖錄」を提唱す。聽衆二百餘人。他山應請の始。

同　三　戊午（五四）

同　四　己未（五五）　八月南豆秋山術友氏の宅に到り「大慧書」を講し、比奈石井玄德氏の宅に入りて「息耕錄開筵普說」を著はす。○古月、自得寺の山門を建つ。

同　五　庚申（五六）　春、「虛堂錄」を評唱す。聽衆四百餘人。

寛保　元　辛酉（五七）　正月甲斐桂林寺に赴き「碧巖錄」を講ず。聽衆二百餘人。十月「寒山詩闡提記聞」を著はす。

同　二　壬戌（五八）　夏、遠江龍潭寺に赴き「禪門寶訓」を講ず。

同　三　癸亥（五九）　二月東嶺來參。三月「大慧武庫」を提唱す。三月曹洞刼迴來參。九月「息耕錄開筵普說」を上梓す。十二月松隆寺庫司落成す。

延享　元　甲子（六〇）　二月「息耕錄開筵普說」を講ず。冬、甲斐自性寺に赴き、活字心經を開版す。林泉寺に「川老金剛經」を講ず。○正月古月、久留米梅林寺に赴き、二月筑後福聚寺々基を定む。

同　二　乙丑（六一）　二月甲斐自得寺に赴き、「維摩經」を講ず。聽衆三百餘人。「十句觀音經」を弘む。

同　三　丙寅（六二）　二月清水禪叢寺に赴き「法華經」を講ず。八月「塞山詩闡提記開」を上梓し、甲斐寶林寺に講ず。遂翁來參。

同　四　丁卯（六三）　春、尾張侯家臣織田信茂來謁す。此の歲飢饉、住菴二十人。

寛延　元　戊辰（六四）　春、山梨重治來謁す。夏、五位の秘訣を發明す。十一月駿河臨濟寺に赴き、開山大休國師の二百年忌を修し、虛堂和尚頌古を評唱す。隻手音聲の公案を唱ぶ。

同　二　己巳（六五）　二月東嶺に印記を授く。夏、黃檗格宗來參、八月「槐安國語」を著はす。○十二月古月筑後福聚寺に進山開堂す。

同　三　庚午（六六）　春、庵原郡大乘寺に赴き「碧巖錄」を提唱す。四月「寶鏡窟記」を著はす。七月「槐安國語」を上梓す。八月遠江貞永寺に赴き、「槐安國語」を評唱す。冬、播磨龍谷寺に赴く。京都世繼政幸來謁す。

寶曆　元　辛未（六七）　春、備前岡山小林寺に赴き、歸路京都を過ぎり世繼氏の宅に館す。池大雅來謁し、大橋慧林尼得度す。妙心寺養源院に「碧巖錄」を講ず。八月「於仁阿佐美」を著はす。八月「遠羅天釜」を上梓す。○四月古月禪材寂す。

同　二　壬申（六八）　四月比奈無量寺落成す。秋、伊豆歸一寺に「佛光錄」を評唱す。冬、京都世繼氏、佛舍利を無量寺に寄す。

同　三　癸酉（六九）　二月甲斐能成寺に赴き「人天眼目」を提唱す。聽衆三百餘人。五月「藪柑子」を著はす。十月「毒語心經」を著はす。

同　四　甲戌（七〇）　古稀の壽筵を開く。十月「三教一致の辯」を著はす。「遙鄙以知書」を著はす。

同　五　乙亥（七一）　春、庶原郡龍津寺に赴き「維摩經」を講ず。

同　六　丙子（七二）　春、「楞嚴經」を講ず。四月安倍郡高林寺寺に赴き、大應國師四百五十年忌を修し、「大應錄」を評唱す。聽衆二百餘人。江尻慈雲寺に赴き「寶鏡三昧」を講ず。冬、「荊叢毒藥」編集成る。

同　七　丁丑（七三）　正月「夜船閑話」を著す。此の歳上梓。春、甲斐南松寺に赴き「槐安國語」を評唱す。春、信濃興禪寺に赴き「法華經」を講ず。次に開善寺及び龍翔寺の請に赴く。阿三婆來謁す。三河龍淵寺に赴く。

同　八　戊寅（七四）　春、美濃瑠璃光寺に赴き、愚堂國師二百年忌を修す。「寶鑑貽照」を著はす。飛騨高山に入り、伊勢桑名に下り、白子龍源寺に入りて「寶藏論」を講じ、尾張に入り熱田龍珠寺、名古屋白林寺に赴き、遠江地藏寺に到りて虛堂頌古を評唱す。夏、「辻談議」を著はす。八月「荊叢毒藥」を上梓す。

同　九　己卯（七五）　春、伊豆龍澤寺落成す。三月「毒藥遺編」を附刊す。七月江尻深川臨川寺に入る。十二月無雞の遺蹟を探る。「八重毒」を著はす。

同　一〇　庚辰（七六）　二月龍澤寺開山の儀を擧ぐ。○四月東嶺龍澤寺に住す。○秋、東嶺龍澤寺易地の工を起す。

同　二　辛巳（七七）　九月龍澤寺易地竣工し、龍澤寺に赴く。

同　三　壬午（七八）　八月澤田大中寺の心經會に赴き、導いで青龍寺に赴く。

同　三　癸未（七九）　正月微疾に罹る。三月江尻慈雲寺に赴き「松源錄」を評唱す。聽衆二百餘人。

明和元　甲申（八〇）　八十壽筵を開く。二月末後の會を開き「大應錄」を評唱す。聽衆七百餘人。蒜津東嶺分座す。三月後事を遂翁に囑す。○七月遂翁妙心寺第一座となる。

同　二　乙酉（八一）　正月龍澤寺に舍利會を修す。三月病に臥す。十二月「壁生草」を著はす。○三月東嶺江戸に下り小石川至道庵を復興す。

同　三　丙戌（八二）　正月請暇牌を掛く。正月江戸東北寺に赴く。二月小石川至道庵に入る。峨山來參。七月伊豆三島福聚院に赴く。

同　四　丁亥（八三）　夏、古名の溫泉に浴す。十月龍澤寺に赴き「荊叢毒藥」を提唱す。聽衆二百五十餘人。東嶺分座す。

同　五　戊子（八四）　十二月十一日松陰寺に寂す。松陰寺、無量寺、龍澤寺の三處に分塔す。

二系圖

（文字の大なるは特に關係の深きを示す）

- 菩提達磨
  - 慧可大祖
    - 僧璨鑑智
      - 道信大醫
        - 弘忍大滿
          - 慧能大鑑
            - 青原行思
              - 石頭希遷
                - 藥山惟儼
                - 道吾圓智
                - 石霜慶諸
                - 雲巖曇晟
                - 洞山良价
                - 曹山本寂
                - 天皇道悟
                - 龍潭崇信
                - 德山宣鑑
                - 巖頭全豁
                - 雪峯義存
                - 雲門文偃
                - 香林澄遠
                - 智門光祚
                - 雪竇重顯
            - 南嶽懷讓
              - 馬祖道一
                - 百丈懷海
                - 黄檗希運
                - 臨濟義玄
                - 興化存獎
                - 南院慧顒
- 風穴延沼
  - 首山省念
    - 汾陽善昭
      - 慈明楚圓
        - 黄龍慧南
          - 眞淨克文
        - 楊岐方會
          - 白雲守端
            - 五祖法演
- 圓悟克勤
  - 大慧宗杲
    - 虎丘紹隆
      - 應菴曇華
        - 密菴咸傑
          - 松源崇嶽
            - 運庵普巖
- 虛堂智愚（以上支那）
  - 南浦紹明
    - 宗峰妙超
      - 關山慧玄
        - 授翁宗弼
- 無因宗因
  - 日峰宗舜
    - 義天玄紹
      - 雪江宗深
        - 東陽英朝
          - 大雅崇匡
            - 功甫玄勳
        - 特芳禪傑
          - 大休宗休
- 先照瑞初
  - 以安智察
    - 東漸宗震
      - 庸山景庸
        - 愚堂東寔
          - 至道無難
            - 道鏡慧端
- 白隱慧鶴
  - 東嶺圓慈
  - 遂翁元盧
  - 峨山慈棹
    - 卓州胡僊
    - 隱山惟琰

劍銘

余有一寶劍、　是非世間鐵、
成來終不磨、　晶々白於雪。
氣衝浮雲散、　光對三千徹、
滅了復還生、　還生作金鐍。
外國悉掃除、　衆生盡磨滅、
常心處々行、　樂之將爲說。

白隱和尚言行錄終

明治四十三年九月三十日印刷
明治四十三年十月一日發行

白隱和尚言行錄
定價金參拾錢

著作者　服部俊崖
發行者　山縣文夫　東京府下北豐島郡巢鴨町大字上駒込十九番地
印刷者　市川七作　東京市小石川區久堅町百〇八番地
印刷所　博文館印刷所　東京市小石川區久堅町百〇八番地

發行所　東京巢鴨町上駒込二十番地
電話（長距離加入）下谷四百三十八番
內外出版協會
振替貯金東京三百五十五番

不許複製

偉人研究

全國數百の新聞雜誌は皆口を極めて此叢書が國民氣風の上に及ぼす影響の大なるべきを言へり、其の健全堅實なる感化の到る處に現はれむことを望めり、全國都鄙の大小圖書館は皆此叢書を購入して入館者の成るべく多く之を繙かむことを望み、又各地市町村の青年會各種講習會小學教員諸君等よりの購求申込は近日に至りて殊に多し。

（第一編）畔上賢造編著　定價金參拾錢　郵稅四錢
リンコン　言行錄

（第二編）中里介山編著　定價金參拾錢　郵稅四錢
トルストイ　言行錄

（第三編）中里介山編著　定價金參拾錢　郵稅四錢
ガーフィールド　言行錄

（第四編）中里介山編著　定價金參拾錢　郵稅四錢
フランクリン　言行錄

版元　東京巢鴨町駒込二十二番地　振替貯金東京三百五十五番
內外出版協會

偉人研究

（第五編）畔上賢造編著　定價金貳拾五錢　郵稅四錢
グラッドストン　言行錄

（第六編）中里介山編著　定價金參拾錢　郵稅四錢
二宮尊德　言行錄

（第七編）加藤信正編著　定價金參拾錢　郵稅四錢
ローズヴェルト　言行錄

（第八編）百島操編著　定價金參拾錢　郵稅四錢
ワシントン　言行錄

（第九編）渡邊修二郎編著　定價金參拾錢　郵稅四錢
鹿素行　言行錄

（第十編）中里介山編著　定價金參拾錢　郵稅四錢
江藤樹　言行錄

（第十一編）秋山悟庵編著　定價金參拾錢　郵稅四錢
貝原益軒　言行錄

（第十二編）松本赳編著　定價金參拾錢　郵稅四錢
ルーテル　言行錄

（第十三編）渡邊修二郎編著　定價金參拾錢　郵稅四錢
大石雄　言行錄

（第十四編）秋山悟庵編著　定價金貳拾五錢　郵稅四錢
聖德太子　言行錄

（第十五編）五十嵐越郎編著　定價金四拾錢　郵稅四錢
吉田松陰　言行錄

（第十六編）渡邊修二郎編著　定價金參拾錢　郵稅四錢
渡邊崋山　言行錄

版元　東京巢鴨町駒込二十二番地　振替貯金東京三百五十五番
內外出版協會

偉人研究

（第十七編）本田無外編著
熊澤蕃山言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

（第十八編）渡邊修二郎編著
新井白石言行錄　定價金四拾錢　郵稅四錢

（第十九編）藤吉喜一編著
ナポレオン言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

（第二十編）松本赳編著
ネルソン言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

（第二十一編）室田有編著
ウェリントン言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

（第二十二編）大屋德城編著
日蓮上人言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

（第二十三編）田中豐松編著
ペスタロッチ言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

（第二十四編）百島操編著
ゴルドン言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

（第二十五編）姉齒準平編著
リヴィングストン言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

（第二十六編）槇不二夫編著
伊藤仁齋言行錄　定價金貳拾五錢　郵稅四錢

（第二十七編）本田無外編著
道元禪師言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

（第二十八編）河面仙四郎編著
クロムウェル言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

版元　東京巢鴨町金貯替振　上駒込二百三十五番地　內外出版協會

偉人研究

（第二十九編）西脇玉峰編著
諸葛孔明言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

（第三十編）松原至文編著
親鸞聖人言行錄　定價金貳拾五錢　郵稅四錢

（第三十一編）大屋德城編著
弘法大師言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

（第三十二編）渡邊修二郎編著
德川光圀言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

（第三十三編）廣瀨勘次郎編著
フレーベル言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

（第三十四編）秋山悟庵編著
林子平言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

（第三十五編）村田犀川編著
佐久間象山言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

（第三十六編）北畠竹之助編著
司馬溫公言行錄　定價金貳拾五錢　郵稅四錢

（第三十七編）本田無外編著
法然上人言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

（第三十八編）松原至文編著
西鄕隆盛言行錄　定價金貳拾五錢　郵稅四錢

（第三十九編）廣瀨勘次郎編著
ガリバルヂ言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

（第四十編）松本赳編著
マホメット言行錄　定價金參拾錢　郵稅四錢

版元　東京巢鴨町金貯替振　上駒込二百三十五番地　內外出版協會

偉人研究

（第四十一編）丸島敬編著
（第四十二編）秋山悟庵編著
（第四十三編）杉原三省編著
（第四十四編）勝水瓊泉編著
（第四十五編）大屋德城編著
（第四十六編）田中豐松編著
（第四十七編）佐久間原編著
（第四十八編）渡邊芳雄編著
（第四十九編）武安衛編著
（第五十編）吉川潤二郎編著
（第五十一編）丸島敬編著
（第五十二編）田中豐松編著

本居宣長言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
上杉鷹山言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
高野長英言行錄　定價金貳拾五錢　郵税四錢
大鹽平八郎言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
傳教大師言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
シーザー言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
シェークスピーア言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
ラスキン言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
孟子言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
ビスマルク言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
平田篤胤言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
エヂソン言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢

版元　東京巢鴨町上駒込二十二番地　振替貯金東京三百五十五番
內外出版協會

偉人研究

（第五十三編）本田無外編著
（第五十四編）高橋淡水編著
（第五十五編）永代靜雄編著
（第五十六編）渡邊修二郎編著
（第五十七編）渡邊芳雄編著
（第五十八編）大橋長一郎編著
（第五十九編）杉原三省編著
（第六十編）高橋淡水編著
（第六十一編）横山雄偉編著
（第六十二編）森近運平編著
（第六十三編）井口丑二編著

白河樂翁言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
福澤諭吉言行錄　定價金貳拾五錢　郵税四錢
新島襄言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
大久保利通言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
王陽明言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
山崎闇齋言行錄　定價金貳拾五錢　郵税四錢
藤田東湖言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
賴山陽言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
セシル・ローズ言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
ジョン・ハワード言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢
豐臣秀吉言行錄　定價金參拾錢　郵税四錢

版元　東京巢鴨町上駒込二十二番地　振替貯金東京三百五十五番
內外出版協會

スマイルス五大著書

▲穩健着實の大教訓▲德性涵養の好讀本

▲獨立自營の活模範▲名士感化の原動力

職分論
金壹圓五拾錢
小包郵稅拾貳錢

品性論
金壹圓五拾錢
小包郵稅拾貳錢

勤儉論
金壹圓貳拾錢
小包郵稅拾貳錢

自助論
金壹圓五拾錢
小包郵稅拾貳錢

勞働論
上卷發行
金五拾錢
郵稅六錢

版元　東京巢鴨町上駒込二十番地
振替貯金口座東京三五五番
内外出版協會

파 2P49

6

95
45

019786-000-0

95-45

白隠和尚言行録

服部　俊崖／著

M43.10

ABG-0606